『ドン・キホーテ』の中の利己的思想

第 155 回関西スペイン語教授法ワークショップ（TADESKA）例会

日時：2022 年 8 月 6 日（土）　15:00 - 16:00

場所：Zoom を利用したオンライン開催

担当：田林　洋一

El pensamiento egoísta en "Don Quixote"

CLV Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA)

Fecha y hora: Sábado, 6 de agosto de 2022, de 15:00 a 16:00

Lugar: En línea (Zoom)

Ponente: Yoichi Tabayashi

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【概要】

本発表では、『ドン・キホーテ』の登場人物が押し並べて利己的な思想を持って動いていること、そして登場人物だけでなく≪余≫たる作者セルバンテスや本作品の読者も利己的に振る舞っていることを概観する。

主人公ドン・キホーテは様々なところで騒動を巻き起こすが、ほとんどの場合は彼が余計な茶々を入れたことで発生する事件ばかりである。例えば、ガレー船漕ぎの囚人たちの事件では、頼まれもしないのに囚人たちの事情聴取を始め、そして勝手に裁定を下して彼らを解放する。英雄になりたいと願う彼の言動はどうしても利己的にならざるを得ない。英雄になるためには、必ず駆逐すべき「悪」の存在が前提とされる。そして、自分が恣意的な「正義」の側にいなければ、「悪」は駆除されるべき対象ではなくなる。

従者のサンチョ・パンサも、自らの主人を狂人と知りつつ「騎士道物語」の理想のままに行動し、彼の原理を真似している点で利己的である。例えば、戦利品と称して無害の人物から食料を強奪する様は、彼がエゴイスティック以外の何者でもないことを示している。

その他の「治療者」たる登場人物、例えば司祭や床屋のニコラス親方、そして後篇で登場する学士サンソン・カラスコらも、自分勝手という点では負けていない。彼らは狂人を慰みものとして楽しむという行為を「治療」と称して行う。ドン・キホーテの愛読書を勝手に火刑に処し、ドン・キホーテの蟄居のために檻に隔離してしまう彼らもまた、すこぶる自分勝手である。

最後に、作者セルバンテスと『ドン・キホーテ』の読者もわがままである。セルバンテスは話の筋を勝手に断ち切り、自らの体験談を物語の中に組み込み、かと思えば関係のない話を繰り返す。更にセルバンテス自身の生涯も、あまり清廉潔白とは呼べないものであった。そして読者は、この作品が登場した 17 世紀には「喜劇の書」として楽しんだが、

以後の 400 年間で「悲劇の書」「啓蒙の書」「狂気の書」などと、勝手に解釈を変更する。つまり、『ドン・キホーテ』にかかわる人物は、それが作品内であれ作品外であれ、エゴイスティックな側面を担うことになる。

【質疑応答】

問：2002 年にノーベル文学研究所が『ドン・キホーテ』を世界一位の文学に選出したのはなぜだと考えられるか。

答：フィクションの文学作品で散文という文体を確立させたのは『ドン・キホーテ』が初と思われるから。

問：ゲリラ・ライブという形式があるが、『ドン・キホーテ』は、いわばゲリラ・ライブを色々な場所で劇のようにしてやっていたと言えるのではないか。

答：ゲリラ的である。『ドン・キホーテ』は、実際にはあまり読まれていない。日本人だけでなく、スペイン人ですらもあまり読んでいないように感じられる。

問：（講演者から）逆に質問だが、『ドン・キホーテ』を読まないような学生たちに、授業でどのように『ドン・キホーテ』を紹介しているか。

答：まずは学生に前提的な文学の知識があるかどうかを確認すること。かつて、恩師がテレビ講座でアントニオ・マチャードや『プラテーロと私』を紹介していて、興味が湧いた。有名なエピソード（風車への突進など）は紹介していきたい。今の学生は文学よりも地域研究の方が興味があるようだ。

問：（講演者から）学校指定の教科書から、「小説」が消え、代わりに契約書などを読ませる形式になった。文科省は学生に文学を読ませたくないと考えているように見えてしまうが、勤務先の大学では、学生は小説をかなり読んでいる。授業の小ネタとして、『ドン・キホーテ』をどのように紹介すべきか。

答：量販店の「ドンキ・ホーテ」ではなく、「ドン・キホーテ」という初歩的なところから説明し、簡単な抄訳などを勧めるのも良い。

問：「わがまま」の定義について、『ドン・キホーテ』の読者がわがままなのか、それとも人間全体がわがままなのか？

答：人間は皆わがままだが、本発表では『ドン・キホーテ』の読者、に線引きしている。400 年の間、読者が『ドン・キホーテ』をわがままに解釈してきた、という意味で、「読者がわがまま」であろう。